

## 第13回韓日未来フォーラムに参加して

名城大学4年竹内未来



2019年12月26日（木）から28日（土）に大阪で行われた、『第13回韓日未来フォーラム』に参加した。夏に島根で行われた第11回の韓日未来フォーラムに続き、今回が2回目の参加だった。そのため、前回は参加していた日本人・韓国人とは久しぶりの再会をすることができた。卒業間近であり忙しい時期であったため、参加をするかとても悩んだが、今回も参加をして本当に良かったと感じている。

今回私は「メディアチーム」として、日韓問題の解決のためのメディアの在り方というテーマで討論を行った。前回初めて参加した時は私自身、テーマに関する知識不足・準備不足が問題であったと感じていた。そこで今回は前回の反省を生かし、テーマに関わる情報を事前に調べて参加した。他の参加者達も各々が情報収集をしてきたため、円滑に情報交換を行うことができた。しかし、各自用意した情報をまとめ、チームの意見としてどのような日韓問題の改善点につなげるのか、という全体の流れの構成がなかなか決まらず苦戦をした。また、今回は前回に比べて発表の準備時間が短かったため、限られた準備時間で作り上げることがさらに大変だった。最終的に私達のチームは、まずメディアは人々の興味を引くために過激な報道やレアケースの事件を報道する傾向にあるという報道の仕方の問題点を挙げた。そして新聞やインターネットなどのそれぞれメディア別の特徴について発表した。その上で、私達日本人も韓国人もニュースとしては報道されていないなくても、文化的なレベルでお互いの国に興味関心があるということ、その意味ではお互いに嫌い合っているわけではないということを述べ、私たちが参加をしている「韓日未来フォーラム」のような民間レベルの日韓交流の大切さについて発表した。



また、他チームの「日韓の歴史教育」や「慰安婦問題」の発表を通して感じたこととしては、特に日本人学生は歴史や政治に関しての興味・関心が低い傾向にあると思う。対して、韓国人学生達は、近代史に関して詳しく学校で学んでいたりと、歴史や政治というテーマに関しての関心が日本人に比べて高いように感じる。その点からも私達日本人大学生たちはもう少しこのようなテーマの問題に対して当事者意識を持つ必要があると思った。

「日韓の就職」に関しての発表はとても興味深かった。私自身、今年日本での就職活動を経験した。その中で体験したことと韓国の学生達が就職活動で求められることの大きな違いがあることを知り、日本の就職活動よりも厳しいように感じた。今後、韓国での就職も視野に入れているので、この「日韓の就職」チームの発表は私の将来に役立つ発表だった。期間中は交流が楽しく、準備も大変であったため寝不足の毎日だった。しかし、自分のチームの発表の準備過程での意見交換や他のチームの発表を聞く中で多くの学びがあった2泊3日のフォーラムだった。



準備の間、チーム単位での活動時間が長かったことはチーム内での交流を深めることができたため、非常に良かったと感じた。しかしその反面、他チームとの交流が希薄し、フォーラム期間中一度も関わることのなかった参加者がいたことは少し残念に感じた。また、日本に住みながら韓国語に触れる機会は減っていたので、今回の交流を通して韓国語で話すことができ良かったと思うと同時に、自分自身の韓国語能力の低下も痛感した。改めて勉強をしようと思う。意識の高い学生達との交流ができたことによって今後の学習意欲に通じる良い刺激を受けることができた。



今回フォーラムに参加して、このような日韓の交流がいかに大切かということを実感した。この韓日未来フォーラムの良さというのは、文化交流に加えて、普段意見交流をすることが難しい日韓関係の問題について直接対話をするができるという点である。直接両国の現状や両国の相手国に対する捉え方について話すことで、新しい発見をすることができたり、誤解を解くきっかけになると感じた。このように最も大切なことは「参加」であり、国と国の問題に関してメディアの報道を鵜呑みにするのではなく、個人が問題意識を持って歩み寄る姿勢を持つことであると考えている。私自身、今回が大学4年の冬ということで、学生最後の参加となった。もっと早くこのフォーラムの存在を知っていれば良かったと感じていると同時に、社会人を中心とした討論を含む交流会がなかなかないことを残念に感じている。このような活動が今後両国においてもっと活発に行われ、さらには日韓だけの問題ではなく、アジアから世界に広がっていくことができればさらに望ましい交流になるのではないかと思います。今後、学生を卒業して社会人になっても参加できる日韓交流があれば、ぜひ参加をしていきたいと考えている。